

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671400261
法人名	株式会社 エバカラー
事業所名	グループホーム エバホーム
所在地	〒619-0212 京都府木津川市梅美台2丁目1-1 (電話) 0774-71-8337

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年1月15日	評価確定日	平成21年3月2日

## 【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 1月 15日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 700,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	700 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,800 円	

### (4) 利用者の概要( 12月 1日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	72 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立山城病院 ・ 大森クリニック ・ 富田歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木津川市の新興住宅地に立地する当該グループホームは、奈良県を中心に利用者本位の介護を展開する法人のグループとして運営されています。「少人数だからこそ出来る快互＝介護」という理念を基に、一人ひとりのペースで自由にその人らしい生活を快適に過ごして頂く、また職員も利用者と共にお互いが快適に過ごせる快互となるようにとの思いを大切に日々支援されています。家族会を兼ねた運営推進会議には多くの家族が参加されており、意見や要望等について話し合い、サービス向上に活かす取り組みがなされています。利用者の楽しみである食事には利用者の好みや希望を採り入れながら、毎食、野菜を豊富に使い、食材一つひとつを大切に美味しく食べやすい工夫がなされています。

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者本位のケアについて再度話し合ったり、希望に添った献立を立て、栄養士によりチェックを受けたり、ホーム内での安全面を考えたり、書面のフォーマットの変更等改善されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	今回の自己評価については職員の意見を基に、管理者と一部の職員でまとめて作成しています。評価については、良い機会と捉えられサービスの質の向上に活かされています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	家族、地域住民代表者、民生委員、市担当者等をメンバーとし2ヶ月に1度開催しています。家族の参加も多く、家族会も兼ねてホームの行事や状況報告、人事異動の報告もしながら質疑応答をし、理解が得られるよう話し合い、意見や苦情をサービスの向上に活かす取り組みをしています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	ホームに来られた際や電話以外にも運営推進会議の際に意見や希望を頂き、前向きに解決に取り組んでいます。また、家族が伝えにくい意見も得られるように無記名のアンケートの機会を設けてサービスに反映させています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し夏祭りに参加したり、地域の環境整備に利用者、職員も一緒に参加しています。また幼稚園の行事(どんと焼き等)にも参加しています。地域の方が見学に来られ、ボランティアをして下さった事もあります。外出、散歩、買い物の際に近隣の方や近くのお店の方との会話を通して交流を図っています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「少人数だからこそできる快互＝介護」をグループホームの基本理念として掲げられている。	○	地域密着型サービスのホームとして、住み慣れた地域で暮らしていくことや、役割を職員間で話し合い、理念について検討される事が期待される。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や日々の取り組みの中で話し合いながら、管理者と職員は、理念を共有し、利用者が寂しくないように職員が寄り添いながら、快適に過ごして頂きたいとの思いで実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、夏祭りに参加したり、地域の環境整備に利用者、職員も一緒に参加している。幼稚園の行事(どんど焼き等)にも参加している。地域の方が見学に来られ、ボランティアをして下さった事もある。外出、散歩、買い物の際に近隣の方や近くのお店の方との会話を通して交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者本位のケアやホーム内での安全面、書面のフォーマットの変更等話し合いながら改善されている。今回の自己評価については職員の意見を基に、管理者と一部の職員でまとめて作成している。評価については、良い機会と捉えられサービスの質の向上に活かされている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域住民代表者、民生委員、市担当者等が参加する運営推進会議が2ヶ月に1度開催されている。家族の参加も多く家族会も兼ねてホームの行事や状況報告、人事異動の報告もしながら質疑応答をし、理解が得られるよう話し合い、意見や苦情をサービスの向上に活かす取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との関わりを大切に考えられており、ホームの近況報告をしたり、相談がある場合には出向いて相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りである「エバホーム通信」で行事の報告、職員の紹介、利用者の様子がわかる写真等を掲載し、一人ひとりの日々のお体の様子と生活の様子の手紙を請求書送付の際に添えて郵送している。利用者の状態変化時には随時、電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに来られた際や電話以外にも家族会や運営推進会議の際に意見や苦情、要望を頂き、前向きに解決に取り組んでいる。また無記名のアンケートも行い言いにくいとも言えるように機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員によりケアを大切にされている。職員が代わる場合には、新しい職員に利用者の状態を把握して貰うために、アセスメント等で説明し、理解して貰いながら職員と一緒に慣れるまでサポートしている。またグループ法人内にて職員の相談に乗れる体制が作られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら職員がレベルアップ出来る体制が取られており、グループ法人内で新人研修、サブリーダー、リーダー研修が実施されている。その他2ヶ月に1度グループ法人の合同研修を交代で全職員が受け、老人ホームの現場で介護技術の実施研修等も行っている。また実践者研修等の外部研修にも計画的に受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良県のグループホーム協議会にて3ヶ月に1度、情報交換や講師を呼んでの勉強会等に参加するなど交流を図っている。また、併設するグループ法人の事業所との行き来があり、利用者と一緒に交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人と家族に見学に来て頂き、ホームでの暮らしに関して十分な説明をしている。ホーム側から家庭を訪問し暮らしぶりや習慣を理解して、利用者に寄り添いながら不安を除くケアをしている。また、1週間から10日間位のお試し利用を活用し、馴染んでから入居して頂くケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、尊敬の気持ちを大切にしながら一緒に生活をしている。季節の行事や調理の際の味付け、字やことばを教えて頂く等支え合う関係づくりがなされている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントから環境や生活習慣、利用者の思いや希望を把握し、日々の会話の中から気持ちを読み取ったり、困難な方は表情や行動から把握して利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで収集した情報を基に、利用者、家族の思いや場合によっては医師や看護師の意見を取り入れ、月に1度行われるカンファレンスで職員が話し合い、一人ひとりに添った介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月から6ヶ月の間に1度、モニタリングをし、評価を行い介護計画を見直しをしている。状態に変化があった場合には医師や家族に報告して意見を聞きカンファレンスを開催し、現状に応じた介護計画に随時変更している。現在様式の見直しを検討している。	○	様式の見直しが検討されているところではあるが、介護計画に添って日々実施されているかどうか、ズレが生じてないかどうか、どの職員がすぐ見てもわかるように記録の工夫をされるのが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の暮らしの中で要望に応じての通院介助をしている。また早期退院の支援や訪問美容、個別の買い物等希望にそった支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞いており、ホームのかかりつけ医は月2回の往診があり、看護師の訪問も週2回ある。また、利用者に応じて口腔ケアを指導する歯科医の訪問もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針があり、入居時に説明して同意を頂いている。重度化した場合は家族、医師、看護師を交えて、その都度、状況と合わせて話し合っていく方針としている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中で尊厳を大切に、利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応を心掛けている。職員はプライバシーの研修も受けている。個人情報等の記録物は、事務所の鍵のかかる書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、起床時間や就寝時間は自由であり、希望があれば出来る限りの外出や外食の支援をしている。利用者一人ひとりのペースを大切に、その人らしい過ごし方を希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は利用者の好みや希望を採り入れながら、毎食、野菜を豊富に使われており、美味しく食べやすい工夫がされている。利用者と職員が食卓を囲んで食事をされ、ほのぼのとした雰囲気である。利用者とはへた取りや盛り付け、また後片付け等を一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調を考慮し、週3回夕方に一人ひとりのペースや希望に添って、入浴して頂いている。希望があれば毎日の入浴も可能である。季節に応じて入浴剤も入れて楽しめる工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんで頂いたり、買い物や食事のお手伝い、水やり等生活歴から役割として活かす支援をしている。また、三味線や長唄、編み物や習字、フラワーアレンジメント等楽しみ事の支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に添って、天気の良い日には散歩や外出に出かけたり、スーパーや近くのお店に買い物に出かける支援をしている。また、外食に出かけたり、季節毎の行事や幼稚園、近隣の行事等に出かける支援もしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵を掛けない支援を実施しているが、職員の少ない場合等、やむを得ない状況に応じて鍵をかける場合もあり、家族に説明し同意を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回訓練を実施しており、消防署を交えての消防訓練とホーム独自で昼夜想定避難訓練を行っている。自治会長、民生委員の方には運営推進会議を通じて非常の際に備えての地域からの協力をお願いをしている。併設する同グループ法人の事業所の応援協力も得られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の希望を採り入れ、量や栄養バランスを考えながら立てられ、法人の栄養士によりチェックを受け、アドバイスをもらっている。食事量、水分量は摂取量を記録されている。習慣を考慮し、また、きざみ食の対応等一人ひとりに添った支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広く明るく、廊下やリビングには利用者が作られた作品や絵画が飾られ、季節の花や観葉植物が所々に置かれ温かみのある共用空間となっている。ソファはリビング以外に廊下にも置かれ、ゆったりと居心地良く過ごせる場所が設けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら、使い慣れたタンスやイス、化粧箱、洋服掛け、テレビ等が持ち込まれ、居心地良く過ごして頂く支援をしている。		